

新聞連載マンガから読む公害史—「サザエさん」の視点—

村上 哲生・加藤 千晴*

History of environmental pollution read from a serial newspaper cartoon; From the viewpoints of a housewife Sazae-san, one of the most famous Japanese comic characters

Tetuo MURAKAMI and Chiharu KATOH

はじめに

過去の小説や漫画などの記述を生活資料として活用し、自然や社会の様子を復元し、一連の時代的な流れを概観する試みは少なくない^{1)~3)}。行政や研究者による視点ではなく、専門性を欠く市民の目により取捨された歴史として貴重であり、特に、住民生活に深く関連する公害・環境問題等では、必要な手法であるかもしれない。公害・環境事件においては、我国の行政や研究者は、必ずしも被害者の立場に立ってきたわけではない。政治や科学への感覚的な批判は、白書等の行政文書には現れ難い。一方、作者の個性により、また発表された媒体の性質により、話題の取捨に偏向がかかることは当然である。所謂「庶民の歴史」として無条件に採用できるものではない。

本報告は、敗戦直後の1946年より1974年まで、長期間、一人の女性作家により描かれた新聞連載漫画「サザエさん」を資料とし、誌上に表現された公害・環境問題の変遷について考察するものである。連載後期の1970年代は、我国において、公害事件が最も深刻になった時期であり、その影響が紙面に反映しているはずである。「サザエさん」の社会的関心や思想性については、既に、1970年代より、繰り返し取り上げられており^{4)~7)}、その多くが、鶴見・齋藤⁸⁾により採録されている。公害・環境問題においても、生活資料として解析する価値がある。

方法

「サザエさん」は、長谷川町子により、1946年5月に夕刊フクニチで、後1949年に朝日新聞で連載が開始されたものであり、1974年2月の休載まで、多量の作品が新聞紙上に発表された。作品の多くは、姉妹社版(1947-)に転載されたが、現在絶版であり、話題の経年変化の分析の資料としては、朝日新聞社版1~45巻を使用した⁹⁾。

経年変化は、公害・環境問題に関するキー・ワード(海の汚染、車の排気ガス、光化学スモッグ、ゴミ問題、騒音、大気汚染等)の出現頻度を、発表年ごとに計数、比較することにより明らかにした。また、対照のリスクとして、食品汚染(キー・ワード;BHC牛乳、チクロ、有

* 平成22年度家政学部生活環境学科卒業生

害添加物等)、事故・病気 (キー・ワード: 水害、水難、交通事故、癌等) についても集計した。
 資料とした朝日新聞社版は、全ての作品を収録しているものではない。公害事件が最も深刻であった1970年~71年の新聞掲載頻度をキー・ワードごとに対照し、作為的な抽出の可能性が小さいことを確認した。

結果及び考察

1. キー・ワード毎の話題の経年変化

日常的なリスクの話題は、時事漫画として扱い易いため、連載の初期から10%程度の割合を占めていた。公害・環境、食品汚染の話題については、1970年代以前にも散見できるが、目立った増加は、第40、41巻に収録された1970年から71年にかけて見られた (Fig. 1)。我国で4大公害事件と言われる水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市公害病の諸事件の訴訟が新聞紙上で盛んに報道されていた時期であり、環境省の前身の環境庁が設置されたのも1971年であった。1970年より連載が終了する1974年の間に、公害・環境の話題は、34件再掲されている

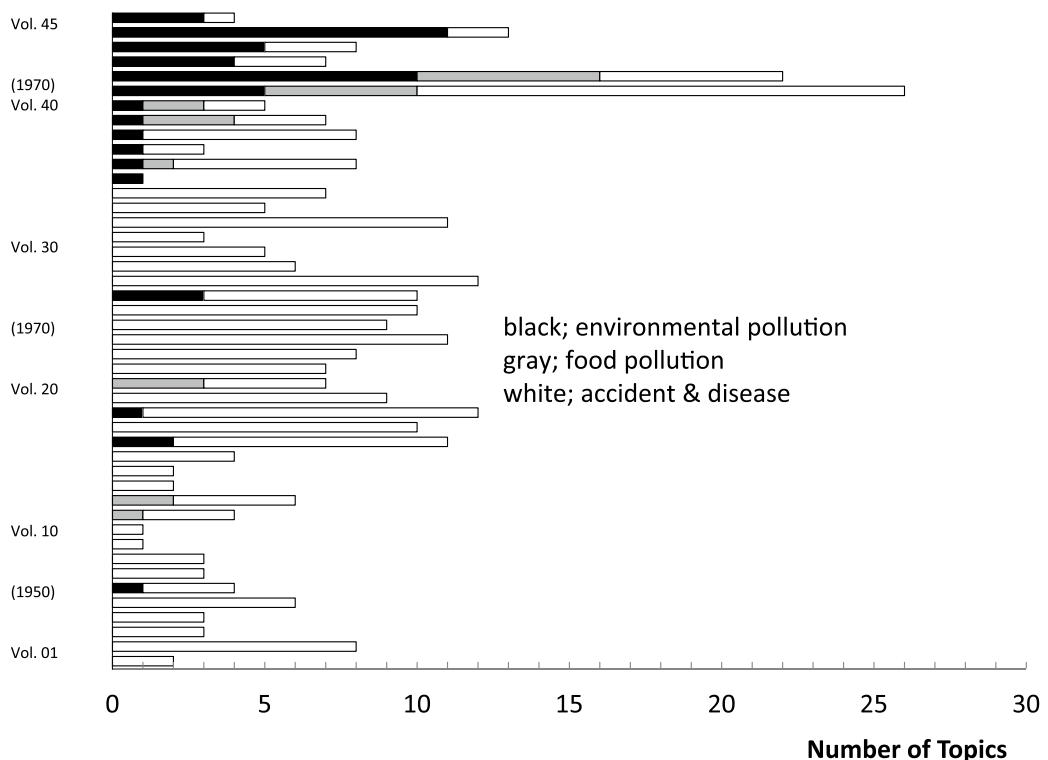


Figure 1. Annual change in number of topic of each risk in a serial cartoon "Sazae-san", black column; environmental pollution, gray column; food pollution, white column; accident and disease
 Topics concerning environmental pollution increase rapidly at early 1970s when dispute grew hot in Japan.

が、内11件が大気汚染に関するものであった。

時事性のある事件は、年とともにその新規性が減じるため、後年に編纂された本研究のテキストでは、意識的に削除される割合が大きくなることが懸念されるが、公害・環境に関する話題については、新聞連載時の比率と資料とした朝日新聞社版のそれはほぼ等しく (Table 1)、経年的な変化を反映できると判断した。

公害・環境に関する話題の増加は、掲載当時の社会の関心に対応しており、連載漫画の生活資料として活用できるものであると考えられる。

Table 1. Comparison with number of cartoons in each risk on newspaper and anthology published in 1994

	Newspaper	Anthology
	May 1970~Feb. 1971	Jun. 1970~Jan. 1971
Environmental pollution	15 (6.0)	7 (4.9)
Food pollution	4 (1.6)	1 (0.7)
Accident & disease	20 (8.0)	5 (3.5)
Others	212 (84.5)	130 (90.9)
Total	251 (100.1)	143 (100.0)
	n (%)	n (%)

2. 新聞連載漫画の生活資料価値と限界

「サザエさん」の話題の経年変化は、作者の社会的関心と^{5), 7)}、公害・環境問題に対する世相の変化を反映しているが、選択された話題は、身近な生活の範囲に限定されており、先に述べた4大公害事件は全く取り上げられていない。例えば、東京都内での光化学スモッグは、身近なまた目新しい話題として取り上げられているものの、その科学的な説明や社会的背景をうかがわせるものではなく、特定の地域の深刻な大気汚染の現実には触れられていない。サザエさんの問題意識が社会的に広がったものにならないとの指摘は既にあるが⁴⁾、これは作者の無関心ではなく、悲惨な現実を戯画化することが憚られたためであろう。生活資料として利用する際、新聞紙上の連載漫画が主張できる限界もまた考慮されるべきである。

引用文献

- 1) 谷口智雅：東京における文学作品中の生物的・視覚的水環境表現からみた水質評価、陸水学雑誌, 56, 19-25. (1995)
- 2) 西脇和彦：社会的資料としての生活マンガ. 学苑・環境文化紀要, (766), 135-144. (1995)
- 3) 森口洋一：新聞連載漫画「サザエさん」を活用した戦後史の調べ学習. 歴史地理教育, (762), 123-127. (2010)
- 4) 大岡秀明：大衆読みもの思想性. 日本児童文学, 24 (13), 59-63. (1978)
- 5) 樋口恵子：戦後30年の生活史を描き切った「サザエさん」. 朝日ジャーナル, 20 (13), 90-93. (1978)
- 6) 加藤典洋：「サザエさん」と戦後. 世界, (572), 165-168. (1992)
- 7) 吉田守男：〈サザエさん〉の社会的関心. 歴史評論, (665), 82-92 (2005) .
- 8) 鶴見俊輔・齋藤慎爾 (編)：サザエさんの〈昭和〉. 245pp. 柏書房. (2006)
- 9) 長谷川町子：サザエさん Vol. 1-45. 朝日新聞社. (1994-1995)

Summary

“Sazae-san”, a popular serial cartoon published in a Japanese newspaper from 1946 to 1974, described the everyday lives in the post-war period from the viewpoint of a housewife. We review the history of environment pollution based on annual changes in the number of related topics issued in the cartoon. The number of topics concerning environmental pollution, such as water pollution, waste disposal, noise problems, and others, showed a rapid increase in 1970, when disputes over environmental pollution grew hot in Japan. However, serious problems, such as the Four Major Environmental Pollutions Issues including the Minamata-disease and air pollution in Yokkaichi, were not described in the cartoon. Serial newspaper cartoons can be instrumental to reconstruct past life styles, but we should bear in mind that there are limitations to the extent of assertion. Serious problems occurring in the real world were left out of the cartoon.

Key words; environmental pollution, historical reconstruction, “Sazae-san”, serial cartoon